

明治学園高等学校 小倉織班 高校2年 赤松陽菜子 小田菜摘 河原彩佳 濱田枇呂 萬財萌絵 古野拓

1. はじめに

私たちはSDGs「住み続けられるまちづくりを」の達成のために、全ての市民が心豊かに暮らせる街を作るべく、北九州の経済活性化を目指して活動している。北九州の産業について調査を進める中で、江戸時代からの伝統的織物であり、かつては全国にまで広まった小倉織が35年前に復元・再生されたことを知った。現在、小倉織の知名度は高くはなく、購入者層も限られているが、**地域が誇りとする特産品**に成長する可能性を秘めている。そこで私たちは**小倉織を地域に浸透させ、売上を増加させる**ことによって、北九州の経済活性化に貢献したいと考えた。

小倉織とは？

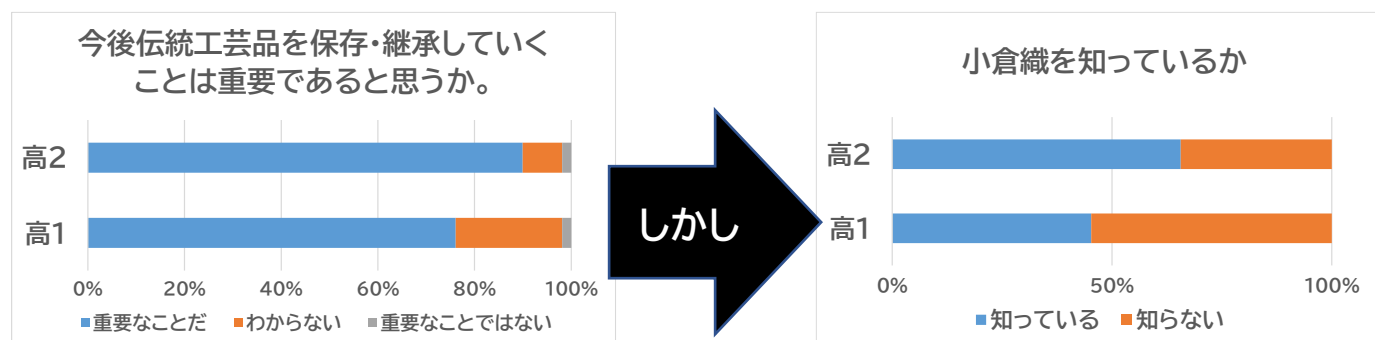
豊前小倉藩の特産品。縦縞を特徴とする良質で丈夫な木綿布。小倉織の袴が武士の間で災難除けの袴として用いられ、全国的に広がった。近代に入って廃れたが、近年復元された。

↓小倉織班が作成した小倉織作品(リボン、ボタン)



2. 予備調査

① 小倉織に関する意識調査(対象:明治学園高校の1、2年生 計321名)



伝統工芸品を保存・継承する意義を大半の高校生は認めている。

地元の伝統工芸品である小倉織の知名度は50%前後である。人気は決して高くない。

② 株式会社小倉縞織の築城弥央氏へのインタビュー



小倉縞織が販売する小倉織製品の購買者の多くは、**中高年の女性に限られている**ことが分かった。

ここから

仮説 若い世代を対象として、小倉織の人気(知名度や親しみ)を上げる活動を行えば、小倉織の購買者は増加する。

3. 仮説の検証方法

- ① 小倉織についての広報活動と小倉織作品の制作体験の実施(活動対象:明治学園高校2年生)
- ② 実施後のアンケート調査(調査対象:明治学園高校1、2年生)

活動 広報活動と小倉織作品の制作体験

2年生に対してのみ、小倉織の特徴と歴史について広報活動を行った。その後、2年生は家庭科の授業で小倉織作品を制作した。2年生の希望者には、余った端切れで小物制作をしてもらった。



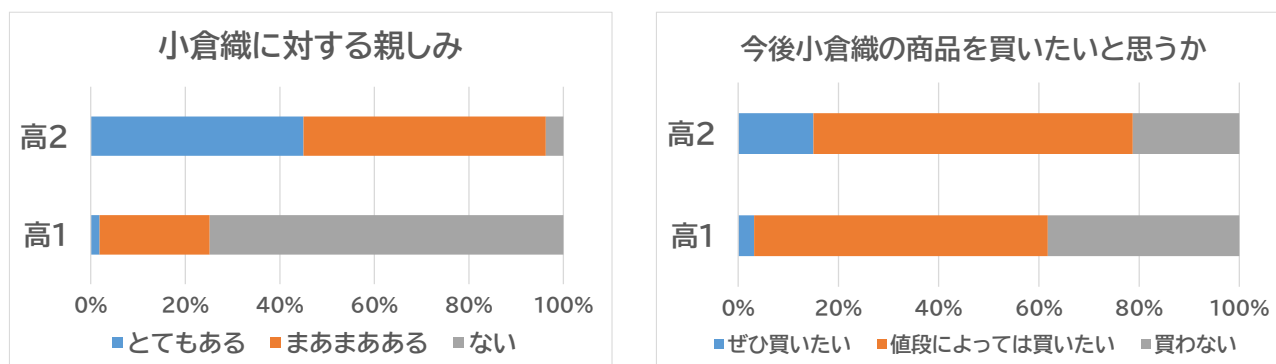
↑小倉織の広報活動の様子(2年生の朝のホームルームで実施)

→小倉織班が2年生に配布した小物制作のための手順説明書の表紙(端切れで作るボタンやキーホルダー)



すると

結果 実施後のアンケート調査



1年生に比べて、2年生は「小倉織に対する親しみ」を持っている人が約70%も多かった。さらに、2年生は購買意欲が高く、小倉織製品を「ぜひ買いたい」と答えた人が10%を超えた。

結論 広報活動と制作体験は、若者に小倉織への親しみを与え、購買意欲を向上させる方法として有効である。

4. 校外活動(計画)

概要 中本町商店街(戸畑区)での製品販売と制作体験

小倉織に対して親しみを持ってもらうためのイベント企画。地域の子どもとその保護者を対象とし、地域の商店街で行う。小倉織や製品に実際に触れてもらう。また、制作体験でオリジナル作品を作ってもらう。



↑イベントチラシ(サンプル)



↑イベント開催予定場所(中本町商店街の休憩スペース)

→制作体験で作ってもらうキーホルダーのサンプル



意義 「地域経済の活性化」と「SDGs 達成への貢献」

校外に活動を広げることによって、幅広い人々に働きかける。今後の経済活動の担い手である子ども達や子育て世代の間で、小倉織の人気を高めることができる。

小倉織の再興のみならず、衰退傾向にある商店街の再活性化にもつながる。
→SDGs11番「住み続けられるまちづくりを」の目標達成に貢献できる。

小倉織の余った端切れを有効活用し、キーホルダー等の小物を制作してもらう。
→SDGs12番「つくる責任 つかう責任」の地域への浸透に貢献できる。

体験イベントは、近隣の学校等に広報チラシを配布した上で新型コロナウイルス感染状況も考慮しながら3月下旬に開催予定

5. 課題と展望

コロナ禍のために活動が大きく制限されたため、これまでは学校内に場所を限定して、広報活動や制作体験の実践を行ってきた。活動の規模が小さく、小倉織普及の成果も不十分だった。今後は、地域の人々に小倉織を広め、地域経済を活性化するために、そしてSDGsの達成に貢献するために、現在予定している商店街イベントなどの企画を様々な場所で実践していきたい。